

発言者	内容	備考
遠藤教育長	<p>それでは、これより平成 30 年第 4 回臨時教育委員会会議を開会する。</p> <p>本日は、私の他 5 人の委員が出席しているので、この会議は成立している。</p> <p>会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員は、会議規則第 14 条第 2 項の規定により、森委員と私とする。</p> <p>「日程第 1 協議」に入る。</p> <p>協議 1 「平成 31 年度使用中学校教科用図書 特別の教科 道徳の採択」について、事務局より説明をお願いします。</p>	10:00
松島指導課長	<p>協議 1 について説明する。</p> <p>本日は、31 年度から中学校で使用する「特別の教科 道徳」の教科書の採択についてご協議をお願いします。</p> <p>まずは、熊本市教科用図書選定委員長から報告をさせていただきます。</p>	
吉井選定委員長	<p>まず、教科書の調査結果について、研究員代表が説明する。</p>	
山川研究員代表	<p>来年度からは、学習指導要領の改訂に伴い、道徳は「特別の教科 道徳」となり、授業では教科書を使用する。文部科学大臣の検定を受けた教科書の発行者は 8 社である。8 社の中から 1 社を採択し、来年度から全学年で同じ発行者の教科書を使用する。教科書研究会では、この 8 社の教科書の中で、本市の生徒に最も適した教科書は、どれであるかを調査研究した。</p> <p>教科書研究会では、法令に基づき、県教育委員会が作成した選定資料を参考にして、10 の観点を設定し、独自に調査研究を行った。</p> <p>今回、私たち研究員が検討した教科書はこの 8 社で、各社とも表紙に工夫が凝らされている。</p> <p>この 8 社を、調査研究の 10 の観点で調査した。ここでは、各観点の内容を示している。この 10 観点すべてについて、調査をした。例えば、観点 1 の「学習指導要領の目標を達成」で各社をしてみる。</p> <p>各社の教科書の目次の例である。目次では、発達段階や学校行事との関連を意識した内容項目の配列にしたり、内容や指導法を示唆するマークを使用したり、教材と学習指導要領に示された内容の 4 つの視点との関連を色分けするなど、各社それぞれの工夫が見られる。</p> <p>また、道徳の時間の進め方についての記載は、今までの副読本には</p>	

見られなかった大きなところである。8社全てにおいて、道徳の意義や学び方が丁寧に記載してある。

教育基本法及び学習指導要領の趣旨のとらえ方などの特徴が分かる部分である。観点1の「学習指導要領の目標を達成」において、各社、いずれも工夫が見られるということになる。このような手順で、全観点を見た。詳細については、まとめたものを、手持ちの調査報告書に記述しているのでご覧いただきたい。

では、本市の子供たちに最も適した教科書は何か。それを検討するためには、絞り込む観点を決める必要がある。まず、教科化の本質を考えると、今回の改善の発端となったのは、いじめの問題への対応であり、生徒が現実の困難な問題に主体的に対応できる実効性ある力を育成していく上で、道徳教育が大きな役割を果たすことが強く求められた。このことにより、発達の段階に応じ、答えが1つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと質的転換を図ることとなった。今回の改訂で極めて重要であるこのことから、絞込みの観点を考えた。

1つ目は、観点3「考え、議論する道徳の実現」である。特に、「調査のポイント」の中に具体的にあり、「問題解決的な学習」について検討していく。

次に、「道徳科の目標」に基づいて考えた。これが、その目標である。今回の改訂で、「学習の過程」が明記された。これは、「一定の道徳的価値に関わる物事を、多面的・多角的に捉えることができるようにする」ことの必要性が求められていることを示している。このことは、まさに「考え、議論する道徳」に当たる。そして、もう1つ「自分の生活を振り返り、成長を実感したり、課題や目標を見付けたりできるようにする」ことが望まれている。このことから、絞込みの観点を考えた。

2つ目は、「調査のポイント」にある、観点4「主体的な学習態度の育成」について、「自己の振り返りができる工夫」という点から検討していく。

以上のことから、絞込みの第1段階として、この2観点から教科書を比較し、8社から絞り込む。次に、第2段階として、熊本市教育振興基本計画の具現化を図るため、基本理念や重点的取組と、本市の全中学校の重点内容項目から最も適している教科書を比較する。以上、この2つの段階を経て推薦する1社を決めていく。

絞り込み第一段階である。観点3、特に「問題解決的な学習への工夫」について、観点4、特に「自己の振り返りができる工夫」について、これら2つの観点ですべての教科書を検討し、○、◎で評価して

いく。

では、東京書籍（以下東書）からである。観点3「考え、議論する道徳」授業の実現 「問題解決的な学習への工夫」について、見てみる。90 頁，94 頁をご覧いただきたい。最初に，主題名が示されており，教材を通して何を学ぶのか方向性をもつことができる。教材末にある「Action！」では，学習のステップが示され，見通しを持った学習ができるようになっている。具体的に見ると，まず，問題場面を実際に役割演技し，演じた気付きから，問題状況を把握する展開になっている。体験的行為をすることで生徒は登場人物に共感し，自分事として問題を捉えることができる。その後，解決方法を考え，再度役割演技をし，「どうすればよいのか」を話し合う展開となっており，実感をともなった生徒相互の話し合いが期待できる。よって，観点3は◎と判断した。

続けて，観点4の「自己の振り返りができる工夫があるか」について，見てみる。

17 頁，185 頁をご覧いただきたい。教材末の「考えてみよう！」に，自らの生活や考えを見つめるための発問がある。また，各教材1箇所には，「つぶやき」という自由に記述する欄があり，考えを記入し，蓄積することができる。巻末には，学期ごとの学習記録もある。生徒は，毎時間，そして，一定の期間の中で振り返りができ，主体的に学習に取り組む態度が育つと期待ができるので，観点4についても，◎と判断した。

次は学校図書（以下学図）である。まずは，観点3について，見てみる。44 頁，47 頁をご覧いただきたい。全学年，主題名が書かれている。教材末には「学びに向かうために」があり，このように，学習のステップ，学習方法が示され，見通しを持った学習ができるようになっている。具体的に見ると，最初の「考えよう」では，生徒自身が問題を見出し自覚することができる。そして，次の「考えよう」では，具体的に様々な解決法を見出すために，話し合う中で，自らの思考力や判断力を高めることができる。特に，理由を語り合うことは，道徳的価値の追求につながっていく。最後に，学びをもとに道徳的価値の意義について考え，自分を見つめ直すことができる。よって，観点3は，◎と判断した。

続けて，観点4である。18 頁，81 頁をご覧いただきたい。教材末の「見つけよう」にある発問，教材と関連付けられたコラム「心の扉」により，振り返りができるよう工夫されている。また，各教材末に記述欄があり，さらに，学期ごとの「学びの記録」や「一年間の振り返

り」も設定されている。「学びの記録」では、「自分の学び」、「印象に残った友達の意見」という視点が示され、対話を通じた深い学びへの工夫が見られる。この頁を見ながら、その期間に学習した内容を振り返ることができる。生徒は複数回、自分を振り返る機会があり、より主体的に学習に取り組む態度が育つと期待できるので観点4についても、◎と判断した。

次は、教育出版（以下教出）である。まずは、観点3について、見てみる。92頁、95頁をご覧いただきたい。教材末には「学びの道しるべ」があり、登場人物の行動から問題意識をもち、その解決へ向けて発問が構成されている。教材の初めには「めあて」が示されており、問題解決的な学習を促す発問が設けられている。しかし、具体的に書かれすぎていて、問題意識を生徒の中から見出すのではなく、与えてしまうことになる。また、話し合い等、問題解決的な学習に向けての手立てが少なく、書く欄についても配慮がほしいところである。よって、観点3は、○と判断した。

続けて、観点4である。8頁、174頁をご覧いただきたい。教材末の「学びの道しるべ」にある3つ目の発問は、よりよく生きるための目標や課題を見出すことができる。また、巻末にある「道徳の学びを記録しよう」では、学期毎の振り返り、さらに、176頁「どんな〇年生になりたいか」では、家庭との連携も図られるよう工夫されている。

ただ、自らの学びを確認し、目標や課題を見出す工夫はあるが、毎時間を具体的に振り返るための記入欄や手立てが少ないため、観点4についても、○と判断した。

次は、光村図書（以下光村）である。まずは、観点3について、見てみる。81頁、85頁をご覧いただきたい。教材末には「学びのテーマ」が示され、問題解決的な学習を促す教材は設けられている。しかし、先ほどと同じように、具体的に書かれすぎていて、問題意識を生徒の中から見出すことができない。また、「見方を変えて」など考える工夫があるが、「考える観点」にある発問は、登場人物の心情理解の発問が多く、さらに、問題解決的な学習に向けた手立ての工夫も少ないため、観点3は、○と判断した。

続けて、観点4である。12頁をご覧いただきたい。教材末の「つなげよう」は自らの生活や考えを見つめることができる。また、「私の気づき」を生かして、毎時間の学びを蓄積することができる。巻末にある「学びの記録」では、4シーズン毎に振り返ることができ、「学んだことが生かされた」「自分の考えが変わってきた」「学んだことを生

かしていきたい」という視点を示し、自分の成長を実感したり、目標や課題を見出したりできるよう工夫されている。よって、観点4は、◎と判断した。

次は、日本文教出版（以下日文）である。まずは、観点3について、見てみる。58頁、60頁をご覧いただきたい。全学年、主題名、登場人物が書かれている。教材末には「学習の進め方」があり、議論する内容、学習のステップが示され、見通しを持った学習ができるようになっている。具体的に見ると、まず、問題をつかもうでは、生徒自身が問題を見出し自覚することができる。そして、自分の考えをもつ段階では、参考資料の頁が設けてあり、考えを持つための配慮がされている。議論する段階では、「解決するためにどうしたらいいか」という発問に加えて、「どんな考え方が大切か話し合おう」となっており、考え方を話し合うことこそ、思考力、判断力が高まることになる。最後の「自分に+1」に、学んだことを前向きに生かす発問があるのも、よりよい生き方を見出す上で有効である。よって、観点3は◎と判断した。

続けて、観点4である。9頁、「道徳ノート」2頁をご覧いただきたい。教材末の「自分に+1」では、自らの生活や考えを見つめるための発問が位置づけられ、よく工夫されている。また、日文には道徳ノートがあり、全ての教材に対応した頁が設けられているため、毎時間の学びを蓄積することができる。一冊のノートになっているので生徒は自らを振り返って自分の成長を実感できる。友達の考えを記入する欄、自己評価ができる欄も設けられている。巻末には、学期ごとに振り返りをする頁があり、そこには、保護者記入欄もある。

生徒の学びを保護者が知り、家庭と連携して子どもたちの道徳性の育成を図ることもできる。以上のことから、観点4についても、◎と判断した。

次は、学研教育みらい（以下学研）である。まずは、観点3について、見てみる。20頁、23頁をご覧いただきたい。教材末に「深めよう」という頁が設けられ、このように学習のステップが示され、見通しを持った学習ができるようになっている。具体的に見ると、生徒自身が問題を見出し自覚し、解決段階では、グループの中で一人一人が意見を出し、そこから、深く考えたいものを選び、更に話し合っていく学習方法がとられている。多様な感じ方や考え方に触れながら、道徳的価値の追求をねらった学習過程の工夫である。また、最後の「踏み出そう」には、このような投げかけがあり、対話を通して自分の考えを深めていく工夫が伺える。よって、観点3は、◎と判断した。

続けて、観点4である。40 頁をご覧いただきたい。教材末にある発問が1つであるため、自己を見つめる発問は少なく、教材と関連させた「深めよう」「クローズアップ」で、自己を見つめる発問や記述欄がある。179 頁巻末には、一年の成長を書き留める「心の四季」が設けられているが、具体的な視点を示す配慮が必要である。毎時間の振り返りが蓄積できず、一定期間における振り返りも具体性に欠けるので、観点4は、○と判断した

次は、廣済堂あかつき（以下あかつき）である。まずは、観点3について、見てみる。122 頁、127 頁をご覧いただきたい。教材末の「考える・話し合う」に示された「学習の手がかり」には、問題解決的な学習を促す教材は設けられている。しかし、生徒が問題意識を持ち、解決するような発問構成がほとんど見られず、話し合う場の設定等、問題解決的な学習の手立てが十分うかがえないため、観点3は、○と判断した。

続けて、観点4である。79 頁、「道徳ノート」28 頁をご覧いただきたい。教材末の「考える、話し合おう」に、自己を見つめるための「考えを広げる・深める」がある。あかつきには、このように別冊の道徳ノートが用意されている。しかし、1 頁1 教材の対応ではなく、1 頁を複数の教材で使用すること、また、教材に示してある発問と道徳ノートの発問が違うところは、配慮が欲しい点である。よって、観点4についても、○と判断した。

最後は、日本教科書（以下日科）である。まずは、観点3について、見てみる。38 頁、41 頁をご覧いただきたい。教材末に「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」があり、問題解決的な学習を促す教材は設けられている。しかし、生徒が問題意識を持つための発問がなく、自らのものの見方、考え方、感じ方を振り返ったり、生き方につなげたりするための発問や記述欄もないため、観点3は、○と判断した。

続けて、観点4である。20 頁をご覧いただきたい。教材末の「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」に発問が示されているが、教材に関する発問が多く、自分を見つめる発問は半数ほどしかない。考えを書くための記述欄は、各学年 2～3 箇所である。191 頁巻末には、一年間の振り返り等をする頁が設けられているが、毎時間の学習の記入欄や手立てが少ないため、観点4についても、○と判断した。

以上、観点3、観点4において、「問題解決的な学習」と「自己の

振り返り」について全社比較した。その結果を一覧にすると、このようになる。

この結果、2つの観点において、東書、学図、日文の3社が、他社より、本市の生徒に必要な工夫や配慮が多く見られると判断できる。

ここからは、3社に絞り込んで比較していく。

教科書選定の第2段階に入る。絞り込むにあたっては、「熊本市教育振興基本計画の基本理念」をベースに考える。「徳・知・体の調和のとれた人づくり」という基本理念のもとに、重点的取組の1つとして、いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応があげられている。

このことから、「命」と「いじめ」がキーワードであると考えられる。各学校でも、特に、「命の大切さ」「思いやりの心」「助け合い」等の気持ちを育む道徳教育に力を注いでいる。

次に、平成29年度の本市の「各学校の重点内容項目」を調査した結果を見てみる。重点内容項目とは、各中学校が生徒の実態や保護者、地域、教職員の願いから、「とても重要である」と考える内容項目のことである。この重点内容項目は、各学校において2～4つほど複数設定して取り組む。そして、各学年、年間35時間の道徳の授業時数の中で2時間以上は実施するものということになる。

この調査結果は、中学校で扱う全22項目中、上位5つの項目である。多くの学校で重点内容項目として設定されている「思いやり、感謝」「生命の尊さ」については、先ほど述べた教育振興基本計画から見えてきたキーワード「いじめ」「いのち」と関連付けることができる。これらのことをもとに、次の3つの内容で比較する。

1つ目は、先ほど確認した「考え、議論する道徳」の実現について改めて3社を比較してみる。「特別の教科 道徳」の要であり、生徒の道徳性を養うために、「考え、議論する道徳」の授業の実現はとても重要なことだからである。そこで、授業において生徒の考えを深めるために必要な「発問や挿絵の工夫」を、1年生の情報モラルを扱った教材で比較する。第1段階とは別の視点で比較する。

2つ目は、「いじめ防止につながる教材の工夫」についても比較する。いじめ防止については、「調査ポイント」のこの部分に書かれている。つまり、観点5の「道徳教育の補充・深化・発展」にあたる。

3つ目は、「生命の尊さについての取り扱いの工夫」についてみていく。

これら、3つの内容を観点に当てはめると、観点の3、観点の5、観点の8となる。第一段階での調査結果と混同しないために、ここで

は、調査結果を☆1つと☆2つで比較する。

最初に、観点3の「発問と挿絵の工夫」について比較する。指導要領には「道徳科においても情報モラルに関する指導を充実する必要がある」と記述されており、本市においても重要な課題である。そこで、中学校で初めて出会う1年生の教材を比較することにした。

1社目の東書である。52頁、54頁をご覧いただきたい。教材の中心となる挿絵では、サイト炎上で焦る主人公の様子が分かるように描いてある。教材末の「考えてみよう」では、発問2でモラル・規則的なこと、つまり「遵法精神」を問い、発問3では信頼できる友達の在り方、「友情、信頼」について問いかけてある。生徒にとっては、思考の流れが分散し、ねらいが焦点化されにくいと考えられるので、東書の観点3は、☆1つと判断した。

次に、2社目の学図である。20頁、24頁をご覧いただきたい。漫画形式で描かれており、生徒にとって興味・関心をもつことができ、理解しやすいと言える。教材末の「学びに向かうために」では、最初の2つの発問で主人公の弱さに共感しながら判断や行動の問題点を考える。中心発問では、自分事として考えること、道徳的な判断力を高めることへの工夫が見られる。さらに、最後の発問はよりよく生きていこうとする道徳的実践へつながっていくものである。よって、学図の観点3は、☆2つと判断した。

3社目の日文である。36頁、40頁をご覧いただきたい。場面ごとに、適切な挿絵が準備され、内容を理解しやすいというのは日文の特色である。これが、主発問に当たる場面の挿絵で、主人公の怒りが分かりやすく挿絵に表わされている。また、次のページにある『学習の進め方』を見ると、この場面をロールプレイする指導方法がとられている。さらに、インタビューをして意見交流することで多様な考えにふれながら道徳的価値について共感的な理解を深め、判断力や心情を高めることを意図してあることがうかがえる。最後にある「自分に+1」の発問は、生徒にとってよりよい生き方についての考えを深める学習につながるものと考えられる。よって、日文の観点3は、☆2つと判断した。

次に、観点5の「いじめ防止につながる教材の工夫」について3社比較する。

まず、1社目の東書である。目次をご覧いただきたい。このように、全学年、3時間構成でユニット化され「いじめ防止」について扱われている。例えば、1年生では、イラストから日常に潜むいじめに気付く、次の教材で傍観者意識を考えさせる段階的な構成がとられ、最後の教材では様々な立場から多様に考え議論するようになっており、工



夫されている。しかし、2年生では、前半2つの教材において「自分との関わりで具体的に考える発問」がなく、3つ目の教材では道徳的行為に関する体験的な活動を取り入れてあるが、「友達に相談したい内容を考え実際に相談する」といった内容で、発達段階を考えた場合、効果的だとは言い難いと思われる。全学年における充実を考えた場合、東書の観点5は、☆1つと判断した。

次に、2社目の学図である。172頁、44頁をご覧いただきたい。学図では、各学年で間接教材と直接教材で指導するようになっている。発達段階に応じた身近な出来事を扱っており、自分事として考え、46頁にある「見つめよう」の問いからは未然に防止するという意図が伺える。また、コラムでは、自分を見つめ、解決方法を考える道徳的実践へつながるよう工夫されている。しかし、ユニット化されておらず、特に3年生では教材単独で2教材しかないことから、重点的な指導が難しいため、学図の観点5は、☆1つと判断した。

3社目の日文である。目次をご覧いただきたい。日文も、全学年でユニット化されている。特色は、「いじめの起きやすい時期」を押さえてあることで、いじめの多い1年生で3つのユニットが組まれている。本市における、6月の「いじめ根絶強化月間」、11月の「心かがやけ月間」に実施すれば効果的である。具体的に見てみると、心の扉で考えるきっかけを投げかけている。続いて2つの教材は、同じ出来事を違う立場からみつめ描かれたもので、多面的・多角的に考えることをねらった教材の工夫である。加えて、問題解決的な学習方法が取られ、自分との関わりで考えることができる。その後のコラムでは、考え方を変えろというスキルを取り上げ、道徳的実践へつながるよう、よく工夫されている。このユニットには、その後、1教材とコラムが位置付けられ充実している。ところが、熊本市の多くの中学校で重点内容項目となっていた「思いやり、感謝」を扱った教材が各学年1つずつしかなく、十分な指導が難しいため、日文の観点5は、☆1つと判断した。

最後に、観点8の「生命の尊さにつながる教材の工夫」について3社を比較する。まず、1社目の東書である。目次をご覧いただきたい。東書は、全学年において教材を複数並べユニット化し、重点的に学ぶことができるよう工夫されている。2年生を例に見てみると、このように、3時間扱いになっている最後の時間を学習のまとめにあて、考えを深めていく工夫がされている。しかし、1年生において、「いのちって何だろう」は主人公が自分史を語り、そこから「生命」の意味を考えるという哲学的な内容で生徒には理解が難しく、「決断！骨髄バンク移植第一号」は治療法が過去のもので誤解を生む危険性があ

り、内容に配慮を要するととらえた。よって、東書の観点8は、☆1つと判断した。

2社目の学図である。26頁をご覧いただきたい。学図は、教材名の横に主題名「かけがえのないいのち」などが掲載され、教材の内容に関連する投げかけがある。「生」と「死」の意味を問い、生命の尊厳を教材化し、「家族愛」や「公正、公平、社会正義」「よりよく生きる喜び」等との関連を意識した指導に留意してある。しかし、「死」を扱ったものが多く、中でも、1年生の母の死を扱った教材は心に響く内容であるが、発達段階から生徒には重いテーマであり、3年のいじめ防止につなげた教材も、自殺の描写があまりにも具体的であり、配慮がほしいと感じられる。よって、学図の観点8は、☆1つと判断した。

最後に、3社目の日文である。4頁をご覧いただきたい。現代的な課題として「テーマ」設定され、全学年複数、教材が設けられている。教材を見てみると、教材名の上に書かれた主題名は、生徒の心に響く言葉で表現され、命について多様な感じ方ができるように工夫されている。特に、3年生では教材がとて多く、「国際理解」「生命倫理」「誇りある生き方」としてユニット化されている。学年が上がると、生命について多面的・多角的に捉えた深い学びができるという発達段階を考慮した工夫である。例えば、「生命倫理」では、臓器提供の教材を通して自他の生命の尊さについて学び、次に、再生医療や薬の開発に取り組まれている山中教授の生き様から、生命についての新たな一面を考えることができる。このように、現代的な課題へ前向きに取り組んでいけるような配慮があるのも特色である。よって、日文の観点8は、☆2つと判断した。

以上、3社を3観点で比較すると、日文が、2つの項目で、☆2つであった。

そこで、第2段階の3つの観点の評価に、最初の第1段階の2つの観点の評価を加えた結果、3社いずれも工夫と配慮が見られるが、日本文教出版が、本市の生徒にとって最も適している教科書であると報告する。

なお、研究員の中でも、本市の生徒が、「手にとって開いてみたくなるような教科書」「学校でも、家庭でも、語り合うきっかけになるような教科書」の最たるものが日文であると共通した思いもあることを申し添えて、調査報告とする。

吉井選定委員長

次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明する。

廣瀬教育審議員

教科書展示会は6月15日から6月28日まで市内9カ所で開催された。意見等を学校及び一般の方々からいただいたので、一部を紹介する。

教科書会社について、全体的な意見としては、学校から34点、一般から16点あった。

学校からは、

- ・どの教科書も、対話を重視した問いが掲載されていた。
- ・各社漫画等も取り入れて、親しみやすさもあり、良いと思う。

の意見があった。

一般からは、

- ・道徳の教科書ができるということで拝見しました。どの本も表紙が最近の映画のキャラクターに似ていて違和感を覚えます。教科書は、そういったものと別にして欲しいです。
- ・どの出版社も盛りだくさんで、濃密で興味深い内容を生徒、先生が消化できるのか。心のゆとりのない中で疑問が残った。

の意見があった。

東京書籍には、学校から30点、一般から4点あった。

学校からは、

- ・生き方について深く考えられるような展開ができる構成がなされていた。
- ・教科書の最後についている心情円盤やミニホワイトボードは、実際に使えるので良いと思った。

の意見があった。

一般からは、

- ・1年生の表紙は、物がひっくり返っている様でフラッシュバックしませんか。震災を経験した者としては非常に気になります。

という意見があった。

学校図書には学校から17点、一般から1点あった。

学校からは、

- ・いじめ問題に対し、いじめ事案を取り上げ、いじめはダメだと直接考えさせる「直接教材」と友情や命の大切さ等の関連した題材で間接的に迫る「間接教材」という形で展開されているのは良かった。
- ・各資料の終わりにある「心の扉」は、内容項目に対するいい形での補完関係にあり、より深く考えさせる資料になっていると思った。

の意見があった。

一般からは、

・各文章が長すぎて読みづらいように思う。

の意見があった。

教育出版には、学校から 20 点，一般から 7 点あった。

学校からは，

- ・章ごとにまとめがあり，工夫がみられた。
- ・自分事として，友だちと議論をすることやその方法，多様な見方や考え方を受け止めること，今後の自分の生き方へつなぐことといった内容が生徒にとっても教員にとってもわかりやすい。

の意見があった。

一般からは，

- ・熊本地震の話に感動しました。自分も被災し，気持ちが落ちこみましたが，この話に勇気をもらいました。自分に子どもがいたら，是非，読ませたいと思いました。とてもきれいで読みやすい本でした。
- ・1 年生で熊本地震が取り上げられており，子どもたちにしっかり考えさせる内容になっている。

の意見があった。

光村図書は，学校から 23 点，一般から 3 点あった。

学校からは，

- ・「学びのテーマ」，「考える観点」，「見方を変えて」，「私の気づき」などを示し，実際の授業で使いやすい工夫がなされていると感じた。
- ・バラエティーに富んだ資料構成で，生徒が考え，議論したくなるような資料であった。

の意見があった。

一般からは，

- ・1 年生 224 頁の一覧表は，とてもわかりやすいと思いました。
- ・天明中学校のボランティア活動の話が載せられていた。活動の中で素晴らしい子どもたちが育っていると同時に，地域がその活動をしっかり支えていることがうかがい知れた。

の意見があった。

日本文教出版には，学校から 34 点，一般から 2 点あった。

学校からは，

- ・文字の量が適度な作品が多く載せてあり，読み取りに時間をかけなくても考えさせる時間が取れそうな気がした。
- ・道徳ノートは，ワークシートとして授業の中で活用し，積み重ねていくことで，評価にもつながるものだと思う。

の意見があった。

一般からは、

- ・目次の下にテーマが記入され、最初に学ぶこと、学び方の説明がなされ、わかりやすいと思いました。
- ・イラストや題もわかりやすく掲載されています。付属の「道徳ノート」も使いやすそうです。

の意見があった。

学研教育みらいには、学校から 29 点、一般から 2 点あった。

学校からは、

- ・「クローズアップ」、「深めよう」など題材をさらに深く理解する工夫があった。
- ・物語だけでなく、写真等もよく使っているため、授業で使いやすい工夫がなされている。

一般からは、

- ・表紙が私服で印象良くありません。

の意見があった。

廣済堂あかつきには、学校から 30 点、一般から 2 点あった。

学校からは、

- ・話し合うことや共に考えることができるような構成になっている。
- ・道徳ノートがついており、担任としては授業の準備がしやすいと思う。

の意見があった。

一般からは、

- ・頁が同じパターンで書かれていて挿絵もイラスト調に偏らず、落ち着いて学習に取り組めると思う。

の意見があった。

日本教科書は、学校から 10 点、一般からは 7 点あった。

学校からは、

- ・読み物資料が、とても身近にある話題で構成されていて良かった。
- ・教材ごとに学習の手掛かりがついている。

の意見があった。

一般からは、

- ・1 年生「銅像が教えてくれたこと」他、個人を挙げる時は、その人物の問題点にも留意が必要だと思う。
- ・2 年生「雨の日のレストラン」では、長時間労働を肯定し、人間らしく生きる権利が明確にされていない。

の意見があった。

以上、展示会でのご意見等の紹介であった。

<p>吉井選定委員長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>ただいまの報告を受けて、選定委員会にて協議をした。</p> <p>まず、道徳科の目標は、「学習指導要領第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」である。</p> <p>全8社の教科書とも、学習指導要領の目標及び内容に従い、それぞれに工夫された内容構成となっている。すべての教科書に様々な工夫が見られたが、ここでは、代表的な2社について申し上げる。</p> <p>学校図書の教科書に関しては、主に以下の2点が工夫されていると報告がなされた。</p> <p>1点目は、全教科の最後に設けられた「学びに向うために」では、「考えよう」「意見交換」「見つめよう」という視点から発問が構成されており、考え、議論する活動を通して考えを深めていくことができるようよく工夫されている。</p> <p>2点目は、「いじめの問題」については、各学年複数箇所を設定されており、直接的な内容の教材と、「いじめ」になりかねない日常の在り方について考える間接的な教材が掲載されていてよく工夫されている。</p> <p>日本文教出版の教科書に関しては、以下の点が工夫されていると報告がなされた。</p> <p>1点目は、教材の最初にある主題名で学習を見通し、最後の「考えてみよう」の発問で、学習のねらいに迫るために考え、議論し、さらに「自分に+1」の発問で、学びをその後に生かすために自己を見つめるという3つのステップから構成され、対話を通して自分の考えを深めていくようよく工夫されている。</p> <p>2点目は、道徳ノートには、毎時間の振り返りとしての自己評価の欄が設けてあり、生徒が自身の良い点や可能性に気付くことを通じ、主体的に学ぶ意欲を高めるようよく工夫されている。</p> <p>3点目は、「いじめ問題」については、各学年に主たる教材が配置され、ユニット化されている。1年生においては、学期毎にユニットを配置し、指導の充実が図られており、よく工夫されている。</p> <p>以上、調査研究員の報告をもとに選定委員会で審議をした。その結果、総合的に判断して、日本文教出版の教科書が、本市の児童が使用する教科書として最適であるとの結論に達した。</p> <p>それでは、協議に入る。</p>	
-----------------------------	---	--

小屋松委員	<p>全体的に言えることだが、どの教科書もボリュームがある。新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を実践しようという基本的な方向がある。特に、道徳科においては、考える時間あるいは議論する時間を十分確保していく教科ではないかと考える。</p> <p>このボリュームでは、それぞれの授業で生徒が心に落とし込むような時間がとれるのか、疑問として感じる。1つの題材を2時間くらいかけて実施してもよいと思う。1時間の限られた時間で、どうやって、考え、議論する道徳を展開していくのかを考えたときに、授業の進め方、テーマに迫るといふ点での工夫が大事になってくる。その観点からはどうだったのか。</p>
山川研究員代表	<p>教科書の題材を1時間で展開することについて、研究員の間でも話題になった。これまでの授業でも同じであるが、前もって読ませるなどの工夫をすることもある。研究員が共通して考えたのは、1年生の教科書を重要視した。理由は、初めて道徳に出会う学年であり、道徳は楽しいという思いを持ってほしいというところがある。教材が長い場合は、前もって読ませたり、2時間取り扱いにしたりできる。挿絵だけで授業を展開することもできる。各社工夫があったが、結論としては、日文が適切であると判断した。</p>
吉井選定委員長	<p>教科書のすべての教材を授業で取り扱うのは、無理かもしれない。家庭でも読めるもの、又は、読んでみようと思う視点でも、調査研究なされている。その点では日文が最適であると判断した。</p>
遠藤教育長	<p>頁数で見ると一番短いのは東書、次に日文で、一番多いのは学図ではないか。日文が最も良いと考えた理由は何か。</p>
山川研究員代表	<p>日文では、1つの教材末に「プラットホーム」や「学び方」等が載っており、その頁も含めての判断である。</p>
遠藤教育長	<p>つまり、本文の長さだけでなく、本文以外についている資料等も含めた頁があるから、そう考えたのか。</p>
山川研究員代表	<p>そうである。</p>
西山委員	<p>選定委員会からの報告を尊重して、3社に絞って議論をする。</p> <p>いじめの題材を例に尋ねる。一番よいとされた日文であるが、例えば1年の「さかなのなみだ」について、「考えてみよう」「自分に+1」</p>

<p>山川研究員代表</p>	<p>があるが、ノートにも同じように発問が示してある。ここには「考えてみよう」あるいは「どんなことを学べるだろう」という問いかけはあるが、「みんなで話し合ってみよう」という問いかけはない。「友達の見解や話し合いをメモしよう」はあるが、話し合いを促すような発問がない。それに対して、東書では、1年の「いじめのない世界へ(1)」の26頁を見ると、「あなたはどのようなことを考えましたか」に続いて、「いじめだと判断した場面とその理由について、グループで話し合いましょう」や「いじめと遊びの違いについて、グループで話し合ってみましょう」「グループでの話し合いを通して、気づいたことや考えたことを書きましよう」など、話し合いを促す問いかけが多く、しかも、書く欄の確保もできている。東書はこの点で優れていると思う。</p> <p>学図は、1年「博史のブログ」では、24頁に「考えよう」「意見交換」「見つめよう」という問いかけがあり、話し合いを促すところが2か所あり、81頁の「学びの記録」の欄に記録するようになっている。少し欄が小さく書きづらい。また、目次にいじめ防止についてマークで示してあるが、マークが多すぎて少し分かりにくい。</p> <p>私は、3社を比較すると、東書が優れているのではないかという意見である。</p> <p>日文のノートについては、学校での意見として、使いやすいということと使いにくいという両極端に分かれているために、自分では判断しかねる。</p> <p>いじめの問題に限っては、西山委員の発言のとおりである。しかし、10観点すべてについて判断したことを、ご理解いただきたい。見出しについては、学図よりも東書や日文が見やすい。また、東書の「道徳はこんな時間に」については、丁寧に書かれている。このことは、研究委員からも同じような意見が出た。同じ視点で、日文を見てみると、目次のイラストや写真は、わかりやすい。そのあと、テーマ設定された内容を紹介するページがあり、年間指導計画が立てやすいと考える。ノートについては、教材末の「考えてみよう」や「自分に+1」の発問がそのままノートに書かれており、もしもノートでは足りない場合は、ワークシートを作成し貼ることもできる。当然、研究員からは、ノートがあれば、先が見えてしまうという意見もあった。最終的には、すべての教師の視点から考え、まずは、ノートというベースがあれば、どの教師にとっても、使いやすいものになると判断した。</p>
<p>西山委員</p>	<p>目次やその後に続くテーマ設定の工夫などは、二次的なものであると思う。今回の道徳の最大のポイントは、「考え、議論する道徳」で</p>



<p>泉委員</p>	<p>ある。この点を考えたときに、「考える」のはいいが「議論する」ということは非常に難しい。中学生に議論を促すような仕組みがあるか、ということについて、東書の教材が重点を置いていると思う。</p> <p>道徳は、考え、議論することが重要だと思う。その際に、話し合いをするとき、生徒たちから多様な考えを引き出すことができる教材がどのようにあるかが大事ではないかと思う。その視点でどの教科書が適切かについて、比較したものがあつたら説明していただきたい。</p>	
<p>山川研究員代表</p>	<p>日文の教科書1年146頁「裏庭での出来事」について、読ませるのではなく、例えば、絵だけを示して考えさせたり、登場人物の顔写真だけを使っても授業展開、発問ができる教材で、生徒の思考を揺さぶるような工夫がある。同じ題材を扱っている3社の中では日文がよかった。</p>	
<p>森委員</p>	<p>今回、学習指導要領では、道徳について「考え、議論する道徳」を全面に打ち出している。当然、考え、議論する視点も大切だが、道徳には、道徳的実践力も大切であると思う。例えば、ごみを捨ててはいけないことは、道徳的に正しい考えであるが、現実にごみを捨てる人はたくさんいる。捨ててあるごみを見たら、人に言われなくても進んでごみを拾って片付けるような行為になってはじめて道徳的実践力ができているといえるのではないか。考えて議論するだけでとどまってしまうと実践につながらないならば、他教科の授業と大差ないと危惧されるところもある。3社について、道徳的実践力にまで視野に入れた教科書のあり方になっているか、その点についてはどうか。</p>	
<p>山川研究員代表</p>	<p>各社、工夫されている。学習指導要領も、判断力が最初に来て、心情、実践意欲などのように順番も変わった。実践の場である学級活動や学校行事などに関連させられるように工夫がされている。</p>	
<p>森委員</p>	<p>実践につなげていくという意味で取り上げている教材や発問など教科書の記載が各教科書ではどうかを聞きたい。</p>	
<p>吉井選定委員長</p>	<p>選定委員会では、PTAの委員から、日文のノートが面白いという意見が出た。ノートに、生徒が学んだことを書いていることに対して、保護者が見て意見を書く仕組みがあつたり、日頃は家庭で子どもと会話がないが、これをきっかけに子どものことを知つたり、様子が分かつたりする機会にもなるという意見であつた。単なる道徳の教科の学</p>	

<p>山川研究員代表</p>	<p>びではなく、実生活に向けてどうあるべきかの自覚につながり、家庭と連携することは、実践へ結びつく工夫の1つだと言えるのではないだろうか。</p> <p>ごみの問題を扱った教材について、日文の1年58頁「よりよい社会のために」について、見開き2頁であるが、この後に学習の進め方として、ごみ箱があった場合とない場合に起こる問題について考え、議論させる工夫がなされている。また、日文の3年40頁「卒業文集最後の二行」について、数社取り扱っているが、日文の挿絵は想像をふくらませ、考えさせるように工夫がされている。問題解決的な学習となっていて、46頁から、「問題をつかもう」、「自分で考えてみよう」、「問題について議論しよう」という工夫もされている。さらに、48頁からの「プラットホーム いじめと向き合う」では、「私たちは、なぜ、人を攻撃するの。」といういじめに関するスキルの学習がある。これらの点からも、判断した。</p>	
<p>森委員</p>	<p>3社を比べてみて、実践に対する配慮という意味で報告してほしい。</p>	
<p>遠藤教育長</p>	<p>ごみに関する同じような内容は東書の1年生83頁にもある。</p> <p>日文は、1年生の58頁にも同じような内容がある。</p> <p>東書は、4人の意見が掲載され、その後「考えてみよう」につながっている。本文自体は日文が簡単で、後の「自分で考えてみよう、議論してみよう」の印象が強く、東書は、本文のみんなの意見を比較して考えてみようとなっている。この同じ教材であると、実際現場ではどちらが使いやすいか、その違いを教えてください。</p>	
<p>山川研究員代表</p>	<p>東書は、1年生が読むととらえた場合、読む量が多い。そのため、日文の方が取り組みやすいのではと判断した。</p>	
<p>森委員</p>	<p>日文では、ゴミ箱の有無に関する議論だが、東書はゴミ箱だけで話し合いは終わってない。ごみを持ち帰りましょうという意見もあって、ゴミ箱があるかないかで議論しているのではない。例えば、ワールドカップでの日本のサポーターの行動は来たときよりも美しくということで掃除をして帰ったことがマスコミで取り上げられ評価された。そもそも、ごみを捨てない、ごみを持ち帰るなど、いろんな解決の仕方や考え方があって、そういう題材では視点を多く出したほうが意見もたくさん出ることも考えられる。ごみに限らず、多くの題材を基に、いろいろな意見や考え方を引き出して、議論を深めていく</p>	

	<p>ような考えもできる。ごみに限らず、実践に結びつく教材を示してほしい。</p>	
<p>山川研究員代表</p>	<p>日文の3年生122頁では、マタニティマークを紹介している。それをきっかけに124頁では、子どもたちに日常生活を振り返らせて生活につなげるような授業展開ができるよう工夫が見られる。</p>	
<p>遠藤教育長</p>	<p>大人だと1つの意見をもとにするよりも複数の意見をもとにした方が議論は深まると思う。小学校と比べた場合、中学校では授業の中で教科書の占める割合はどうか。中学校では、日文はよくできているために、逆に丁寧過ぎるのではないか。丁寧に作ってある教科書がいいのか、小学校に比べるとそこまで教科書に書かれていなくても、教科書は授業の中の一部であり資料として使う程度なのか、そのあたりはどうか。</p>	
<p>山川研究員代表</p>	<p>教科書は主たる教材である。教科書については、すべて読ませたり、一部読ませたりと様々な授業展開のパターンがある。そのベースは、教科書である。</p>	
<p>西山委員</p>	<p>生徒に議論させることができるかが、最大のポイントであると思う。生徒は「こんなこといったらどうなるだろうか」という気持ちから発言しないのではないかと、発言する生徒は限られてくるのではないかという気がする。発言力が強い生徒がいるとそれに対して何もいなくなる状況が生まれかねない。だから、議論に導くテクニックが必要であると思う。その点では、東書の1年生102頁には、議論のテクニックが示されている。こういう内容によって、議論を促すことができるテクニックは大事である。この頁は優れていると思っている。その点でも東書が優れている。</p>	
<p>山川研究員代表</p>	<p>議論のテクニックの頁については、東書は良いという意見は、研究員からも出された。話し合い活動については、道徳科だけでなく、学級活動やほかの教科等の時間も利用しながら取り組むことであるので、総合的に考えて判断したとご理解いただきたい。</p>	
<p>出川委員</p>	<p>どんな情報を提示するかが大事であると思っている。特に、いじめの問題について各社どういう教材がどの学年で示してあるのか。</p>	
<p>山川研究員代表</p>	<p>いじめの問題については、間接教材、直接教材、いじめ問題を多面</p>	

	<p>的、多角的に見ることができるよう工夫されているところは、各社共通している。特色がみられた教科書としては、学図では、大切な 10 のポイントとしていじめ問題が設定されている。</p> <p>東書は、いじめと生命尊重は複数教材あり、ユニット化して重点的に扱われている。</p> <p>光村は、巻末に「いじめを許さないために」というテーマで教材を紹介している。扱っている教材としては、発達段階に応じた取り扱いになっている。</p> <p>日文は、1 年生では、自分たちの問題として、身近な問題が取り上げられ、学年が上がるにつれて、いじめ問題から視野を広げて、様々な人権課題についても取り扱われ幅広く考えられるよう教材が配置されている。</p>	
出川委員	いじめ問題の教材の内容はどのようなものか。	
山川研究員代表	いじめ問題，障がい者の人権，L G B T，外国人の人権など人権課題についてたくさん扱ってある。	
遠藤教育長	各社の比較をしたい。もう少しニュートラルに、他社の情報も交えて説明していただきたい。	
山川研究員代表	熊本県の選定資料の 18 頁，各社の教材一覧をご覧いただきたい。いじめについては，各社工夫をして取り扱っている。	
小屋松委員	道徳では書くということも大切であるが，考えて話すことが中心となると考える。ノートがあるかないでは，どのような違いがあるか。	
山川研究員代表	<p>ノートがある場合のメリットは，教師にとって，経験の有無に関わらずすべての教師が授業するときの一助となり，その後の授業改善にも生かすことができる。ノートが基本となることで，工夫を加えやすい。生徒の学びを蓄積することができ，継続的に把握できるため，指導と評価の一助となり，成長を一覧できる。家庭との連携を図ることができる。生徒にとっては，自らの思考や学びの足跡を記録できる。1 時間の振り返りだけでなく，一冊のノートになっているため，一定期間の振り返りが可能であり，成長を実感できる。</p> <p>デメリットでは，授業の展開がわかってしまう。しかし，工夫によって，解決できる。</p>	

遠藤教育長	<p>時間がきたので、第1の協議はここまでで終了する。</p> <p>続いて、協議2「平成31年度使用小学校 道徳以外の教科用図書の採択」に入る。事務局より説明をお願いする</p>	
松島指導課長	<p>協議2について説明する。</p> <p>今年度は、小学校の道徳以外の教科書について4年周期の採択を行う年となっている。</p> <p>しかし、平成30年3月30日付けの文科省からの通知により、「平成29年度検定において新たな図書の申請がなかったため、前回の検定合格図書の中から採択を行う。4年間の実績をふまえつつ、平成26年度採択における調査研究の内容等を活用することも考えられる。」とであるので、現在使用している教科書の選定意見書を活用して、選定委員会で審議を行った。</p> <p>これにあたり、熊本市教科用図書選定委員長から報告をさせていただく。</p>	
吉井選定委員長	<p>平成26年度採択における選定意見書を基に、現在、教科書を使用している小学校現場の意見を参考にするうえで、小学校校長の意見、そして教科書展示会における小学校の先生方から出た意見を聞き、審議を行った。</p> <p>小学校の先生方からは、「適した文字の大きさで使いやすい」「資料が豊富で充実している」「学習の手引き等が工夫されており、活用しやすい」等の肯定的な意見がほとんどであった。</p> <p>小学校校長からの意見も「現在4年間使用している教科書において、不都合な点などの声は聞かれず、特に問題はない」ということであった。</p> <p>このような意見を集約し、選定委員会にて審議した結果、平成31年度に本市の児童が使用する教科書は、現在使用している平成26年度採択教科書を継続して使用することがふさわしいと判断した。</p> <p>それでは、協議に入る。ご意見・ご質問はないか。</p>	
森委員	<p>現場の職員の負担もある。選定しないといけないとなると、負担が大きい。たった1年間のためだけに負担が大きいので、今の意見でよいと思う。</p>	
遠藤教育長	<p>他に意見はないか。</p> <p>ないようなので、以上で、本日の協議は終了する。</p>	

本日の協議を受けて，次回 8 月 10 日の臨時教育委員会会議にて採  
択を行う。

以上で本日の日程は全て終了する。

これで，平成 30 年第 4 回臨時教育委員会会議を閉会する。